
W主人公ファンタジー(仮)

ミズ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

W主人公ファンタジー（仮）

【Nコード】

N5946Z

【作者名】

ミズ

【あらすじ】

男女のW主人公異世界ファンタジーです。

処女作です。今のところ恋愛要素が入る予定はありません。

遅筆です。よろしければ暇つぶしに一読どうぞよろしくお願いします。

01（前書き）

処女作です。

誤字脱字、不可解な点などありましたら教えて頂けると嬉しいです。

彼等は何の前触れ無く現れた。

彼等の日常が、非日常へと変化した瞬間であった。
広場中の人々が息を飲み口をつぐんだ。

一瞬の静寂。

混乱による場の平和。

風や炎、時間までもがその動きを止めたかの様に思えた。

誰かがひく、と声にならない音をもらす。

そしてそれを呼び水にあがった悲鳴が時間を呼び覚まし、凍りついた状況を打ち碎いた。

瞬間、さらに深い混乱、混沌へと人々は突き落とされていった。

それは雲一つ無い、晴れ渡った清々しい朝の広場での事。

01（後書き）

途中で投げ出さぬよう、頑張ります。

城から来た迎えの馬車の中で、アリスは瞑目し頬杖をつきながら一週間前の出来事について思案していた。

たぶん、今日アイツに呼ばれたのもこの件についてなんだろうな。あまり難しい話で無いと良いんだが、そうはいかないかな。

丁度一週間前の朝、王都広場中央に突然現れた数百の人間。

見たこともない異様な服装の者達が不意に降って湧いた様に出現した事に、広場にいた人々はパニックを起こした。そしてそれは向こうも同様、否、それ以上だった。叫び、泣き喚く。

もしくは放心状態に。

パニックは暴動へと変化した。広場の警邏達では暴徒と化した群集を抑える事は出来ず、軍の小隊までもが出動した。

術師達による放水が人を散らし、兵士達が暴れる民衆を押さえ付け、異質な者達を捕縛した。混乱に乗じて窃盗を働く者まで現れる始末であった。

部隊によって事態が鎮静化したのは日が真上に昇った頃だった。突然姿を現した者達は捕縛されたまま、軍が王城へと連行していった。それ以降、彼等は何者でどういった方法で広場に、何故現れたのかといった情報は国からは全く開示されず、関わった部隊と国の上層

部には箝口令がしかれた。

一部では某国が送り込んできた術師とかなんとか陰謀論めいた噂が流れてるみたいだけど、まあそりゃ無いだろうな。広場に送り込むなんて間違いでもマヌケすぎる。大体、転移魔法や召喚魔法は不可能だっていうのが近年の魔術権威達の見解だったはず。難しい事は分からんけど。

馬車が止まる。商人達の荷馬車が列を作って前の道を横断していた。足を組み直す。

陰謀論は置いとくにしても、他国でも同時刻に同じ事が起こったという話は本当らしいなあ。こっちも詳しいことは知らないが。ふうむ。そろそろ事の詳細が知れたから丁度良い。色々聞かせてもらおうじゃないの。

馬車が再び動き出した。道を子供達が笑い声をあげながら走っている。横目でそれを追いかける。

それに、彼等の中には子供達もいた。どうしているかも気になるしな。……しかしさっきから揺れが気になるなあ。

アリスは窓から青い顔を出して御者に声をかける。

「すまないが、もう少しゆっくり進んでもらえないか？」

「今日は道が混んでいるので、十分ゆっくりですよ。遅すぎるぐらいです」

「……そうか、ありがとう」

酔った。

だから馬車は苦手なんだ、気持ち悪くなってきた。

うええ。

02 (後書き)

W 主人公の女の方です。

は？

俺は寝ぼけてるのか？それともまだ夢の中なのか？

俺の周りには見知らぬ、しかし街を歩けばどこにでもいるような人達がたくさん突っ立っている。その顔はどれも驚愕に彩られていた。そしてその人垣の向こうには明らかに日本ではない光景が広がっていた。

日本人ではない現地の人間か？人々が俺達を見つめている。

なんだこれは、どこだここは。

何が起きた。何が起きた。何が起きた。何が起きた。
何が起きた。何が起きた。何が起きた。何が起きた。
何が起きた。何が起きた。何が起きた。何が起きた。
何が起きた。何が起きた。何が起きた。何が起きた。
何が起きた。何が起きた。何が起きた。何が起きた。
何が起きた。何が起きた。何が起きた。何が起きた。
何が起きた。何が起きた。何が起きた。何が起きた。
何が起きた。何が起きた。何が起きた。何が起きた。

夢だ！これは夢だ！！

しかし混乱する頭の隅で、本能が告げる。

夢なんかじゃない。こんなにも感覚がリアルだ！

一瞬がとてつもなく長く長く感じられた。そして。

「うあああつあああああああ！」

俺が、誰かが、悲鳴をあげた。

それはこの場所、人、時間、現実という全てへの否定の叫びだった。

それからの事はよく覚えていない。

パニックの中何も分からないまま人に詰め寄り、掴みかかり、叫び倒し、気がつくと俺は後ろ手に縄をかけられ大勢の人と共に幌馬車に乗せられていた。城のような建物に着いてからは一日、地下の広い牢の様な部屋に閉じ込められた。

だが次の日、身元不明の俺達を保護という形で城に置くといわれ20人単位で部屋を与えられた。

そしてこの訳の分からない状況に置かれてから三日目。ようやく落ち着きだした俺達は話し合いを始めた。

03 (後書き)

W 主人公の男の方です。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5946z/>

W主人公ファンタジー(仮)

2011年12月19日23時49分発行